

抗生物質との併用も可能、合併症・副作用のない安全性

ナリネ菌 免疫力を増強する驚異のヒト由来乳酸菌

腸内環境を整えることは、様々な疾患の予防に繋がります。しかし、腸はストレスに弱く、その異常から疾患に繋がるケースが増えているのです。そんな腸にとっての救世主のような乳酸菌に迫ります。

海外では

医薬品として長年使用

長寿の国、コーカサス地方のアルメニアで発見されたナリネ菌という乳酸菌が世界で注目されています。ヒト由来の乳酸桿菌であることから、ヒトに対して高い親和性を持ち、腸内での定着力、適応性に優れています。

腸内細菌のバランスは、ヒトの健康

や病気に密接に関係しています。ナリネ菌は、短期間で善玉菌の再生、増殖を助けるとともに、悪玉菌の働きを抑制。大腸の蠕動運動を活発にし、便通の改善に大きな効果を発揮します。腸内の腐敗菌増殖による毒素産生やアンモニアなどのガス発生、腸管免疫の異常を回復する実例が、世界中で認められており、海外では疾患の予防・治療に医薬品として使用されています。

きました。

発見から60年以上、

食品被害・副作用のない安全性

ナリネ菌は、抗生物質に対する抵抗力が高いため、併用が可能で合併症や副作用の心配はありません。抗菌効果は、マツンやケフィアの1.5〜2倍持続し、生体内でビタミン類および乳酸の合成促進作用が高いと報告されています。事実、発見以来60年以上に及ぶ使用実績の中で、食品被害や副作用などの報告は全くなく、高い安全性と機能が世界で認められている乳酸菌なのです。

他の乳酸菌を
はるかに凌ぐ耐酸性

ビフィズス菌、ラクト菌、アルメニア原産のナリネ菌を塩酸溶液に浸し、変動を観察した研究があります。結果は、ビフィズス菌が30分で死滅、酸に強いといわれるラクト菌でも1時間後には殆ど生存していないのに対し、ナリネ菌は2時間後でも10%以上の生存

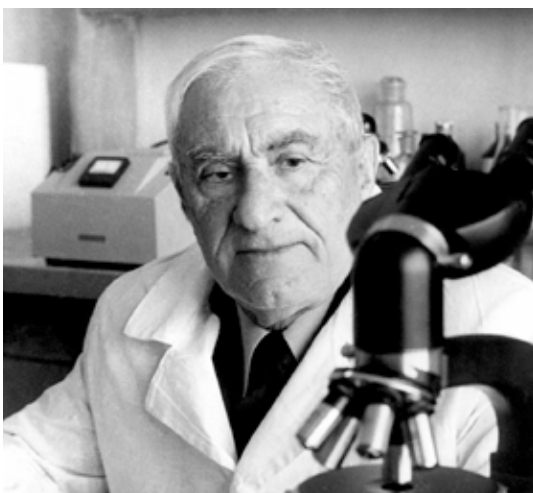
が確認されました。

つまり、殆どの乳酸菌は胃酸や胆汁酸に弱く、腸に届くまでに死滅してしまいますが、酸に強いナリネ菌は、生きて腸まで到達するということです。pH.0の塩酸中でも増殖し、ヒトの腸内では2週間生存していることが実証されています。

免疫力を高め、様々なシーンで
健康管理に使用

生体の免疫力を増強するインターフェロンの産生を高めるといふ研究報告もあるナリネ菌。強い抗菌作用は、大腸菌に対してはビフィズス菌の4〜10倍、チフス菌に関しては3〜5倍になります。

ナリネ菌は、極限のストレス下に置かれた宇宙飛行士の健康管理や、1986年に起こったチェルノブイリ原発事故の被爆者の治療にも使われ、高い効果を上げてきました。乳酸菌の中でも最も有効といわれるナリネ菌は、現代人の健康を守る重要な鍵となるでしょう。



ナリネ菌の発見者

アルメニア共和国科学アカデミー
微生物研究所
エルゼンキヤン博士

1953年、博士は孫娘の「ナリネ」が生まれた時、胎便から分離した16種類の乳酸菌から、特に耐酸性、抗菌力に優れた乳酸菌を発見しました。数年後、抗生物質の効かない重い腸炎にかかり、生命が危ぶまれた孫娘ナリネに、この乳酸菌を投与したところ見事に回復。このことに因み、「ナリネ菌」と名付けられました。